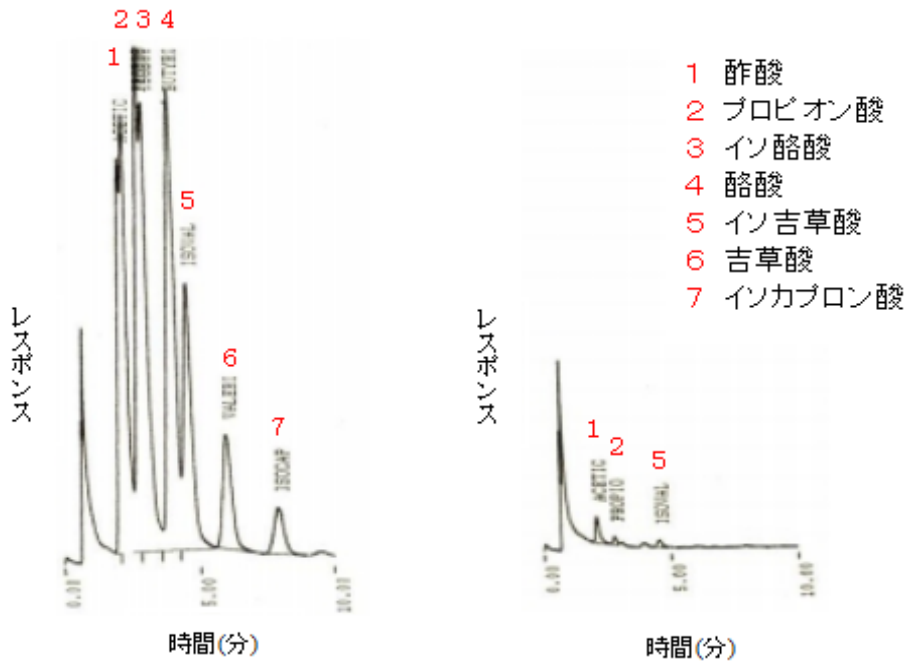


バイオ製剤による臭気の抑制

当社は排泄物の消臭に必要な放線菌を数株選抜し、種菌として利用しています。その働きの一つに悪臭成分である低級脂肪酸を分解し、悪臭を抑制できる機能があります。

生ごみや畜糞などの有機廃棄物は、嫌氣的条件下で炭水化物やタンパク質、脂質等が腐敗することにより、悪臭成分である低級脂肪酸(酢酸、プロピオン酸、酪酸、吉草酸、カプロン酸等)が発生します。

この有機廃棄物に投与することにより、放線菌の働きで低級脂肪酸を炭酸ガスと水に分解することができます。また、悪臭の発生源となる有機質(炭水化物、タンパク質、脂質等)をそれぞれの強力な分解酵素で分解するため、悪臭を元から断つことができます。



豚糞の低級脂肪酸の
ガスクロマトグラフ

放線菌による豚糞の5日間処理における
低級脂肪酸のガスクロマトグラフ

豚糞の低級脂肪酸は、検出された種類が多くピークも高く出ていることより、悪臭が強いことが分かります。しかし、放線菌で5日間処理したものは検出された種類が少なくピークも低くなっています。これは放線菌が豚糞の低級脂肪酸を分解したためです。

実際に使用した場合は家畜糞の表面からは直ちに悪臭が分解され、悪臭の発生が無くなります。